

## ＜研究事例＞

# 保育園における同和教育の実践

——事例研究と地域との連携を中心として——

小 林 豊 子  
香 山 潤 子  
竹 内 美智子

### 1 同和教育のねがい

- (1)保育目標（明るく健康な子ども・いのちを大切にする子ども・がまん強く思いやりのある子ども）に沿って人権感覚を育てる保育をする。
- (2)父母・地域と協力して、基本的生活習慣の自立、社会性を育てるなど、具体的事実をふまえて保育活動を進める。  
（（例）あけぼの遊園地の活用）
- (3)同和教育の内容は保育指針の六領域の内容と分離するものではない。しかしながら同和教育の視点は明らかにして具体的な指導をする。  
（（例）被差別部落、全家庭、障害児、外国籍家庭、疎外されている児童など）

### 2 課 題

- (1)身体的障害をもっている子。
- (2)家庭内での欲求不満により無気力、短気をおこしている子。
- (3)父母の盲愛により、自立できない子。

### 3 実践指導例Ⅰ

- (1)身体的障害により疎外されやすいK子。

イ．生育歴

S57年 3月1日生 現在4才8ヶ月

出生時の両親の年齢 父26歳 母23歳(第2子長女)

家族構成——父、母、兄(年長)、弟(乳児)、本児の5人

分娩——正常 体重——3,050g 哺乳方法——人工

離乳時期——開始11ヶ月、完了15ヶ月

歩行開始——1年2ヶ月

平常体温——36度4分

既往病——はしか(1才2ヶ月時)

持っている病気——先天性心臓病(ファロー<sup>よんちょう</sup>四徴)

※ファロー四徴とは

静脈血の一部が動脈血と交って心臓から全身に送り出されてしまう病気である。

静脈血は炭酸ガスを多く含み、動脈血は酸素を多く含んでいるので、ファロー四徴の場合、全身の血液が酸素不足なのである。これによりチアノーゼが出る事、また全身が酸欠状態になる低酸素発作といわれる恐しい発作も起こるとされている。

K子の場合

- ・常時チアノーゼが全身に出ている。
- ・普段、皮膚は、赤銅色をしている。
- ・唇は紫、爪・指先は青紫である。
- ・気温変化に弱く、特に寒いと皮膚の色はますます黒味がかかる。
- ・ゆっくり歩いても呼吸が速くなり、「ハアハア」と苦しがる。
- ・心理的・精神的に負担がかかっても呼吸は荒くなる。例えば、ボタンをかける時、折り紙をする時など。
- ・苦しくなると自分でしゃがみこみ、休む習慣がついている。
- ・生後5ヶ月ぐらいまでは発作があったが、現在は起きていない。
- ・発育状況は悪く、身長96.5cm、体重12.6kg(10月30日現在)である。
- ・手足の爪が病気のため、奇形している。指先がふくらんでいる。

## ロ. K子の行動及び様子

### 《7月》

- ・ S61年7月1日より登園
- ・ お友達の前に立ち嬉しそうに紹介を受ける。
- ・ 園生活は初めてであり、不安・とまどいが多く泣いている事が大半。食事もほとんど口に入らない。
- ・ 乳児・未満児と一緒に中庭の涼しい場所にいる事が多い。

### 《8月》

- ・ 園生活に慣れてきたが、クラス活動では水あそびが主で、K子は見学、ひとり遊びが多く楽しくない。
- ・ ほんの少し触られただけでも「たたいた」と言って泣く。
- ・ 自分からやろうとする事が少なく、相手まかせになりやすい。
- ・ 体調を崩し、排便を失敗。保育者に伝える。

### 《9月》

- ・ 園周辺の散歩などに参加する。
- ・ 同年令の活動は、とてもうれしい様子だが、身体に無理がかかったり疲れ始めると泣く。
- ・ 泣く事によって注目を集めたい気持ちもうかがわれる。
- ・ 好きな遊びの中で自分から積極的に仲間を求める様子がみられる。

### 《10月》

- ・ スキップができるように努力する。
- ・ K子なりの運動会参加をする（かけっこでは距離を短くした）
- ・ 散歩を嫌がって泣く。

### 《11月》

- ・ 「寒い」と言って泣く。
- ・ ひとり、先頭だと喜んで歩く。
- ・ 『かごめかごめ』に進んで参加する。
- ・ ままごとを喜んでする。

- ・他児は午睡がないため、眠くなくても寝たがらない。

ハ、友達とのかかわり

#### 《7月》

- ・新しい友達がめずらしく、関心をもってK子に近づく。

「K子ちゃん、紫色の口紅つけてる。」 事例1

- ・泣いているK子の様子を伝えて来る子、助けてあげようとする子が見られる。K子の座席に近いM男が積極的に困っているK子と接するようになる。

#### 《8月》

- ・A子も座席が近い事もあったか、K子が困っていると手助けするようになる。
- ・はさみ使いで……

「K子ちゃんなんかできっこないよ。」 事例2

- ・K子が保育者を呼んでいると……

「K子ちゃん、チェンチェイだって。」 事例3

- ・K子が座席についていると……

「K子ちゃん、Mちゃんとかへんな顔してみた。」 事例4

#### 《9月》

- ・「K子ちゃん泣いているよ。」と言ってそばにより心配したり、「疲れたんだって。おんぶしてあげた。」など、K子に対して、思いやりをみせる。
- ・K子が「何しているの?」と声をかけると仲間に入れて遊ぶ。
- ・スキップができるように努力しているK子を見守ったり、応援する。

#### 《10月》

- ・一緒にスキップしたり、励ましたりする。
- ・「K子ちゃん、こっちの方が軽いよ。」などと声をかけ、身体を気使う。
- ・「K子ちゃんはいいいんだよ。」と、諦めている。

#### 《11月》

- ・泣いている時は、苦しいのだと思っている。
- ・「K子ちゃんが一番だよ。」と先頭へ誘導する。
- ・「苦しいんだよ。真中に入って。」と、K子の遊びの参加方法を認めている。

## ニ．保育者の配慮

### 《7月》

- ・「K子さんは、体が弱いので、みんなで大切にしましょう。」と、子ども達全員に話し呼びかける。
- ・K子の病気をよく知る。と共に、食事量・体力を考慮する。
- ・園生活に早く慣れるよう、言葉がけを多くし、手助けしたり見守ったりする。
- ・病気の緊急時における園対策を相談する。

### 《8月》

- ・水あそび（プール）は、ほとんどできないが、K子なりの参加を考慮し、友達との交流を少しでも多く持たせるようにする。
- ・連絡をとり、家庭での様子を知る。
- ・K子の良いところを子ども達に話し、K子のすばらしさを伝える。

### 《9月》

- ・K子に対して、子ども達の関心が強くなる。K子にできる事はさせ、自信をつけられる方向に指導する。
- ・多少困難と思われる活動も、一緒にやりぬくようにする。
- ・K子に合った参加を考慮しながら、仲間意識を深める。

### 《10月》

- ・保育者と行動を共にすると安心感がある。一緒にやる喜び、努力する気力を認めていく。
- ・心臓負担が軽い時は、例外がない様子を見せ、他児に知らせていく。

### 《11月》

- ・K子の様子を窺っての活動ができ始める。良い事をとりあげ全体に広めていく。
- ・児童相談で専門医からの保育の助言を求めるように指示される。
- ・室内活動の増加で、友達との接触が増える。
- ・体力維持のため、午睡をとるように誘う。

## ホ．事例1～4の場面と対応

### 事例1 K子ちゃん、紫色の口紅つけてる

場面：K男「K子ちゃん、紫色の口紅つけてる。」

T男「気持ちわりいなっ。」

M子「K子ちゃん、紫色の口紅つけてんだよ。気持ち悪いんだよ。」

と、M子はおもしろがっている様子で話していた。

対応：子ども達の前で、K子の体についてもっと詳しく話し、もう一度大切にしようと呼びかける。K男、T男、M子の3人には、3人の言い分を聞き、話し合う。言ってはならない事だと理解する方向に指導した。

### 事例2 K子ちゃんなんか、できっこないよ

場面：はさみを使い、切りぬきをしていると……

F男「K子ちゃんなんかできっこないよ。」

Y男「きっとそうだ。」

A子「できないよ。できないよ。」とくり返して室内がざわめく。

対応：K子は、他に頼ってしまい、人まかせが多い。それを見ていての言葉と思う。K子には自分で切りぬくように言葉がけをし、手助けもする。始める前から投げ出さない強い心も育てたい。子ども達には、やる前から決めつけて言わないように話す。

### 事例3 K子ちゃん、チェンチェイだって

場面：K子が保育者を呼んでいると、それを聞いて……

Y男「K子ちゃん、チェンチェイ（先生）だって。」

と、大きな声で言った。数人がそれを聞いて笑う。

対応：Y男も「せんせい」と言えず「てんてい」と言っている。きちんと言いたくても発音できない事はわかっているY男なので、同類意識が出て、おもしろ半分も少しといったところだろう。おかしいところは、指摘してもふざけず、直し合うよう方向づける。

### 事例4 K子ちゃん、Mちゃんとかへんな顔してみた

場面：K子が座席についていると、M子が来た。と、突然K子が泣き出す。数人がM子にむらがって、「M子ちゃん、謝りな。」と言う。

保育者「どうしたの？」

M子「だって、K子ちゃん、Mちゃんとかへんな顔して見た。」

K子「みてない。」と、泣く。

M子は、K子をつねったようだ。

対応：つねる事はやめるように、はっきり言う。K子は、体調が悪いので、見方によっては恐くもみえる。M子に、K子は体調が悪く、表情が悪いと思い違いされた。本当は、M子と仲良くしたかったのだと知らせる。そしてM子に、謝るよう指導した。なかなか謝れなかったが、「ごめんね。」を言うと、泣いているM子をK子はなぐさめていた。

へ。今後の方針

- ・病気をよく知り、K子の現在の病状を確認する。
- ・指先がふくらんでいるため、器用に動かすことができない。指先を使うように、ボタンかけ練習玩具、折り紙、ブロック、楽器、かじ屋さんごっこ等を与えて遊ばせていく。
- ・体力がないため遊びについていけずひとりあそびが多い。友達と関わる遊びを見つけすすめてみる。（プリン屋さんごっこ、ままごとなど）
- ・食事の量を加減し、食べる量や速さに対して自信をつけていく。
- ・言語発達を促すため、ゆっくり話すこと、大きく口を開けること（歌などを通して）を心がける。
- ・友達と接する事により、K子自身の心身の成長を促し、常に、ひとりの人間として人権を尊び、尊ばれるように方向づける。
- ・K子との出会いは、日が浅いため、心の動きや友だちとの関わりではっきりした事実がつかみとれない面が多い。以後、起こるであろう問題を予測し、K子の気持ちにそえる対応ができるように探求を続ける。

(2)家庭内での欲求不満により無気力、ヒステリーをおこしているA男への子どもたち、保母の関わり

イ. 生育歴

・ S55年7月2日生 現在6才4ヶ月

出生時の両親の年齢 父36歳 母35歳（第3子次男）

家族構成——父、母、兄（小6）、姉（小2）、弟（3才）、祖母、本児の7人

分娩——正常 体重2,650 g

哺乳方法——人工

離乳開始——11ヶ月

持病——気管支ぜんそく

1才半の時入院。何度か発作をおこし、点滴を受ける。現在では、冷たい空気を吸った時に胸が苦しくなる程度で、医者に行かなくても点滴を受けなくてもよいという。

#### ロ. A男の行動、性格

- ・かけ回することはめったになく砂あそびが主。マラソンコースのかけ足は遅くなってもがんばって走り通す。
- ・ゲーム的なことを好み、室内でのブロックや積み木あそびには集中する。
- ・母親にくっついて登園する。
- ・園での生活に入ると、友達ともよく話をしたり気のきいたことを言う。
- ・女の子とは、ほとんどあそばず、3人ぐらいの決まった男友達とあそぶ。
- ・絵を細かいところまで丁寧に描く。
- ・プールは大好き。
- ・声が小さく、呼んでも返事をしない。
- ・鼓笛の指揮者になったら、喜んで毎日練習しようとははり切りである。
- ・父親を怖がっている様子もみられる。
- ・行動は遅く、やる気に欠ける。
- ・いつでも疲れた顔、格好をしている。
- ・祖母、父母はA男がききわけがなくなると叱りたいたたりもするらしい。小学校へ行くまでに我慢するということができるようになってほしいと言っている。

#### ハ. 事例の場面と子ども達、保母の対応

「『今日は、ぼくのうちへ遊びに来てね。』と友だちに言えないからおかあさんが言ってよ。』というA男にそんなことぐらい自分で言いなさいと母親が注意、そして



気げんを悪くした。

↓対応

保母が少し口調を強く叱ってみる。庭に出ても友達はずっと遠くから見ている。大の仲よしのYくんも今日は近寄ってこない。「ぼくの家へ来てね。」と言いたかったのはYくんだった。保母はA男と手をつなぎ、「言いたいこと、言ってごらん。」とA男に促すがA男は「ヤダ。」とそっぽをむく。素直になればいいねとA男に話す。体操やかけ足の後、友だちが集まり、「Aちゃん、どうしてヤダっていうのかな、どうして泣くのかな。」と話し合う。さびしいんだね、具合が悪いのかな？、お母さんとはなれるのはつまらないけど、保育園へ来れば友だちがいるからおもしろい、Aちゃんもなかないであそべばいいのに、など子どもたちの中から意見が出た。保母もA男がなぜさびしいのか考えてみると、母親とはなれた、友だちが限られている、仲よしのYくんがA男を待たずに先にあそんでいて、自分なりのあそびが見出せない、ということがあげられる。「泣いたり、おこったりしないAちゃんが好きなんだよ。」と話す。

他に、疲れのために気げんを悪くした、弟にかかりきりの母親を追って泣いた、忘れものをしたととても気にしてヒステリー状態になった、など、事例はたくさんあるが、ヒステリーの状態にある時には、何も声をかけないで様子を見る方がよいようである。おだんだら、友達とのあそびの中に誘い入れ、あそんで気をまぎらすようにしている。

## 二. 今後の方針

- ・体力をつけるため、普通の運動はすすんでやらせること。なわとび、サッカー、体育機能を伸ばす運動に誘う。
- ・友だちを固定せず、多くの子と関わらせる。
- ・自分の要求はなるべく自分の口から言わせること。
- ・「いやならいいよ。」と言わず、たくさんのかんことを経験させていくこと。つとめて、手・足を使う、言葉をつかう、考える、という機会や場を与える。
- ・何かをやってもらう、やってみたらできたというところにとどまらず、こうやったらできるかな？やってみようと、「できた」から「やる」への意欲を持たせて

いく。

- ・ぼんやりしていることが多いが、注意を促して次の動作に誘う。

### (3)親の盲愛に、自立できなかったM夫

#### イ. 生育歴

S 55年11月26日生 現在 6 才

出生時の両親の年齢 父38歳 母41歳（第1子長男）

家族構成——父、母、本児の3人

分娩——手術 体重3,450 g

哺乳方法——混合

#### ロ. 行動及び問題点と指導方法

- ①友だちはいるが一緒に協力して遊べる相手がいない。

指導：友だちや保母と一緒にあそび、さらに友だちを指定して遊ばせた。協力しないとできないことをやらせた。砂あそび、体育的なあそびに誘った。ひとりっ子なので異年齢の子どもともあそばせた。ひとりあそびを好んだので、保母と1対1で徹底的にあそんだ。

- ②「ママのゆめを見たいな。」とか「ママに会いたい。」「ママ、何しているかな。」といつも母親のことを気にかけていた。

指導：クラスの子ども達が、「ママだって、おかしい。家にいるに決まっているのに。」とM夫に対してバカにしたようなことを言うので、話の転換を計った。寂しがらないようにM夫とお母さんの話をする。

- ③登園時刻が遅い（10時～11時）ため、円滑な園生活がおくれない。

指導：友だちを固定せず、たくさんの友だちとあそべるようにきっかけを作る。午睡時、眠れない時は、砂場であそばせた。「早く来てあそぼうね。」と早く来ることを促した。早く来た時は誉めた。

親に対しては次のように助言した。

- ・近所の友だちとあそばせるように。
- ・家では、ブロックやミニカー、ぬいぐるみで、ひとりあそんでいることが多いので、戸外であそばせるように勧めた。

- ・子どもを不安がらせないような行動をとるよう依頼した。
- ・起こすタイミングを知って起こすように。
- ・子どもやクラスの現状を話し、早寝・早起をして、規則正しい生活リズムを身につけてほしい。

#### ハ．結果と方向付け

- ・登園時刻が遅いので、十分に遊べず、食事のとり方も不十分である。また午睡も出来ないで夕方になって睡眠をとるため夜はおそくまで起きている。したがって朝もおそくまで寝ている。この悪循環の繰り返しで、本人はもとよりクラスの友達関係にまで影響し、疎外されるような言動まで見られるようになった。親に早く登園するように促したが、通じ得なかった。
- ・子ばなれをしてほしかった。
- ・母親が、いつまでも子どもに付添っていないで担任にまかせてほしかった。
- ・子どもが自分でやれる能力を認め、親が余分な手出し、口出しをせず、じっくり見守ってほしかった。

※M夫の母親は、高年令出産で、しかもひとりしか産めないからだであること、父親自身ひとりっ子なので、ひとりっ子のM夫をたいへんにかわいがっていた。母親は、子どもを年令より小さく見ており、口やかましく世話をやく。教育熱心でピアノや習字に通わせていた。

M夫は、海野保育園通園区域外だったが、母親が夕方まで就労していたという理由で長時間保育を希望し、海野保育園に3年間在籍した。しかし、来年は、小学校にあがるので、地域の友だちとまじわせたいとの親の要求で入学する小学校の通学区域の保育園へS61年7月から移籍している。

## 実践例Ⅱ

父母、地域と協力して、基本的生活習慣の自立、社会性を育てるなど、具体的事実ふまえて、保育活動を進める。

(あけぼの遊園地の活動例)

### 1. あけぼの遊園地

昭和50年ごろ同和対策事業として地区の共同作業所が建設され、付属施設として遊園地（砂場、低鉄棒、スベリ台、ジャングルジムなど）が設置されて、広さは150㎡位で周囲には花畑や小果樹（木いちご、すぐり、ぐみ、なつめ、ふさすぐり、ブラックベリー、ゆすらうめ）の畑になっている。作業所といっても、集会所向きに間取りもとってあり、和・洋二間、炊事室、便所、玄関付である。

### 2. 遊園地の活用と地域の連けい

- (1)保育園から約500m位の位置にあり、信越線沿いであるため、電車の見学を兼ねた散歩コースの中に入り、未満児、3才児がよく利用している。
- (2)園児引率の際に、地域の方々とも、挨拶や会話を交わす機会が多くなる。
- (3)小学校低学年児童も帰宅後は良く、ここを活用しており、保母がする手入の手伝いなどをする機会がある。（花畑の手入、灌水など）
- (4)花畑にはジャーマンアイリス、水仙、チューリップ、はぎ、マリーゴールド、など四季折々の花が作られている。特に6月～7月にかけてのジャーマンアイリスの花期には地区の方々に切花を分けてあげる事もできる程になった。
- (5)木いちご、ゆすらうめ、すぐりの収穫期（6月～7月）（9月～11月）には散歩の一時に、いちごつみなどの楽しみもあり園児の喜びの一時である。
- (6)保育園母の会主催の父母奉仕作業に、この遊園地の整備も入れていただき、今年は砂場の日除け棚の設置等、環境が一段とすばらしいものになった。
- (7)将来は保育園内にある職員研修サークル（海野児童文化研究会）の活動場所として開放してもらう事を検討中である。

### 3. 今後の方針と展望

- (1)過去6年間の実践経過を踏まえて、園外保育の大切な場所として位置付けると同時に、地域の子ども集団の拠点にも発展するよう望みたい。
- (2)園と母の会で連けいして進めている、花と果実を楽しむ会の展示圃も設けていきたい。（交渉中）
- (3)不動児童公園、本海野遊園地、海野グランドなどと共に、区全体の児童施設として位置付けるよう、関係機関、団体に働きかけたい。

(現状は海野保育園、本海野区第四支区解放同盟本海野支部の三者で手入れ、及び整備を分担している。)

(4)地域で遊ぶ「子ども集団」の育ちの中に同和教育で志向する人権感覚の芽生えと育成を重ねたいと念願している。

(東部町社会福祉法人海野保育園)